

2025年2月18日
 近鉄不動産株式会社

あべのハルカス美術館 展覧会 「手塚治虫 ブラック・ジャック展」 「密やかな美 小村雪岱のすべて」開催決定！

あべのハルカス美術館では、日本美術や西洋美術、現代アートなど多彩な展覧会を開催しています。

2025年は、1月18日（土）から開催中の「生誕140年 YUMEJI展 大正浪漫と新しい世界」に続き、4月から「空想旅行案内人 ジャン=ミッシェル・フォロン」、7月から「深堀隆介展 水面のゆらぎの中へ」を開催予定です。（既報のとおり。詳細は別紙参照）このたび上記の展覧会に続き、新たに下記、2展覧会の開催が決定しましたのでお知らせいたします。

今後も、より魅力的な都市型美術館として多くのお客様にお越しいただけるよう運営してまいります。

「手塚治虫 ブラック・ジャック展」

会 期：2025年9月27日（土）～12月14日（日）

共 催：読売テレビ、読売新聞社

開 催 趣 旨：本展は、500点以上の原稿に加え、連載当時の『週刊少年チャンピオン』や1970年代に発行された単行本、200以上のエピソードの直筆原稿が展示される『ブラック・ジャック』史上最大規模の展覧会です。手塚治虫の情熱と執念が感じられる当時の資料も展示。世界的に評価されている名作マンガ『ブラック・ジャック』のすべてを余すことなく体感できます。



①



②



③

「密やかな美 小村雪岱のすべて」

会 期：2025年12月27日（土）～2026年3月1日（日）

共 催：毎日新聞社

開 催 趣 旨：大正から昭和初期にかけて、日本画や書籍の装幀、挿絵や映画の美術考証、舞台装置に至るまで、幅広く手がけた小村雪岱（1887～1940）。本展では、泉鏡花をはじめとする数多くの文学者や松岡映丘などの日本画家、出版人や舞台人たちとの交流と協働に光をあて、「人」とのつながりから雪岱の全画業を再考します。彼らの仕事へのリスペクトから、雪岱の情趣溢れる端麗な作品世界がいかに築かれたかをみつめ、新たな雪岱像の構築をめざします。



④《春告鳥》1932(昭和7)年頃 絹本着色
個人蔵(埼玉県立近代美術館寄託)



⑤《青柳》1924(大正13)年頃 絹本着色
埼玉県立近代美術館蔵



⑥《おせん》1941(昭和16)年頃 木版、紙
埼玉県立近代美術館蔵



⑦《雪兎》1942(昭和17)年 ※没後の刷り 木版、紙
埼玉県立近代美術館蔵

※上記①～⑦の画像データは貸出が可能です。ご希望の方はお問合せください。

また、事前に原稿の確認が必要になります。

(画像の使用は、本展覧会をご紹介いただく媒体に限ります。ご使用後は破棄をお願いします。)

※開催1ヶ月前を目処に詳細なプレスリリースを皆様のもとへお送りします。

あべのハルカス美術館 2025年1月～2026年3月 展覧会ラインアップ

会期	2025年1月18日(土) ～ 3月16日(日)	4月5日(土) ～ 6月22日(日)	7月5日(土) ～ 9月7日(日)	9月27日(土) ～ 12月14日(日)	12月27日(土) ～ 2026年3月1日(日)
展覧会名	生誕140年 YUMEJI展 大正浪漫と新しい世界	空想旅行案内人 ジャン=ミッシェル・フォロン	深堀隆介展 水面のゆらぎの中へ	手塚治虫 ブラック・ジャック展	密やかな美 小村雪岱のすべて

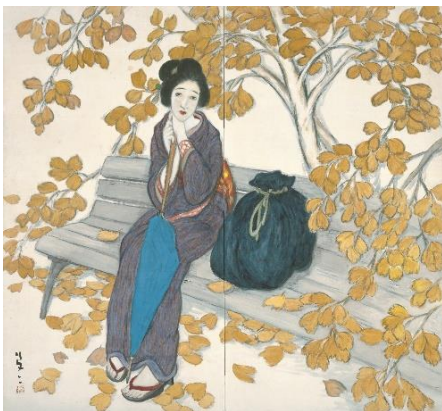
【詳細】

生誕140年 YUMEJI展 大正浪漫と新しい世界

会 期：2025年1月18日(土)～3月16日(日)

共 催：産経新聞社、関西テレビ放送

開催趣旨：大正浪漫の象徴であり、「夢二式美人」で一世を風靡した竹久夢二(1884-1934)は、明治から昭和前期にいたる日本近代芸術・文化の円熟した魅力をもっとも醸し出した芸術家でした。夢二は、絵画だけでなく雑誌や楽譜、本の装幀、日用品のデザインなど多岐にわたるジャンルで活躍し、彼の作品は、今もなお私たちを惹きつけてやみません。本展は、夢二郷土美術館が所蔵する選りすぐりのコレクションを中心に、最新の研究に基づく新たな視点から選んだ作品や資料約180点により、夢二の画業と魅力をご紹介します。是非会場で夢二の世界を心ゆくまでお楽しみください。



《秋のいこい》
1920(大正9)年 紙本着色
夢二郷土美術館蔵



《西海岸の裸婦》
1931-32(昭和6-7)年 油彩、カンヴァス
夢二郷土美術館蔵



《アマリリス》
1919(大正8)年頃 油彩、カンヴァス
夢二郷土美術館蔵

空想旅行案内人 ジャン=ミッシェル・フォロン

会 期：2025年4月5日(土)～6月22日(日)

共 催：産経新聞社、関西テレビ放送

開催趣旨：ジャン=ミッシェル・フォロン (Jean-Michel Folon 1934-2005) は、ベルギーが生んだユニークなアーティストです。詩的でユーモアに富み、やわらかな色彩と軽やかなタッチで表現されたフォロンの作品は、見る人を空想の旅へと連れ出してくれるとともに、この世界で起きているさまざまなことからへの気づきをもたらす、豊かなメッセージ性をももたえています。フォロンの没後20年、そして彼が生前に設立したフォロン財団の25周年を記念する本展は、絵画、彫刻、ポスターなどの多彩な作品約230点によって、そのあたたかく深遠な魅力をご紹介します。



《秘密》
1999年 ブロンズ
©photograph by Fernandez



《大天使》
2003年 水彩



《グリーンピース 深い 深いトラブル》
1988年 ポスター

*すべてフォロン財団蔵
©Fondation Folon, ADAGP/Paris, 2024-2025

深堀隆介展 水面のゆらぎの中へ

会 期：2025年7月5日(土)～9月7日(日)

共 催：読売テレビ、読売新聞社

開催趣旨：金魚に魅せられ、創作を続ける美術作家・深堀隆介。透明樹脂にアクリル絵の具で何層にも重ねて描く「2.5Dペインティング」とも称される斬新な技法により立体感のある金魚を作り出してきました。その作品は、まるで目の前に水があり、命のある美しい金魚が泳いでいるかのような迫真性を観る者に与えます。水面の揺らぎの中にあるのは虚か実か、幻か現か。深堀は自身の作品をまるで生きているかのように「見せる」一方で、それが命を持たない絵の具の積層であるという事実と正面から対峙します。深堀の作品には、幻影と物質の同居というリアリズムにおける根源的な命題が横たわっているのです。本展では初期の立体作品から、絵画、映像、大規模なインスタレーションなど新作を含む作品約300点を一挙ご紹介。深堀が一貫して取り組んできた金魚の造形にあらためて光をあて、描くこと、リアルであることに対する作家の思想に迫る展覧会です。虚実の狭間をたゆたうように私たちを誘う、〈金魚繚乱〉の世界をご覧ください。



《金魚酒 命名 鈴夏》2021年



《百濟》2004年



《大渦》2010年

あべのハルカス美術館

【アクセス】

【開館時間】

火～金：10:00 - 20:00
土日祝：10:00 - 18:00
*入館は閉館30分前まで

【休館日】

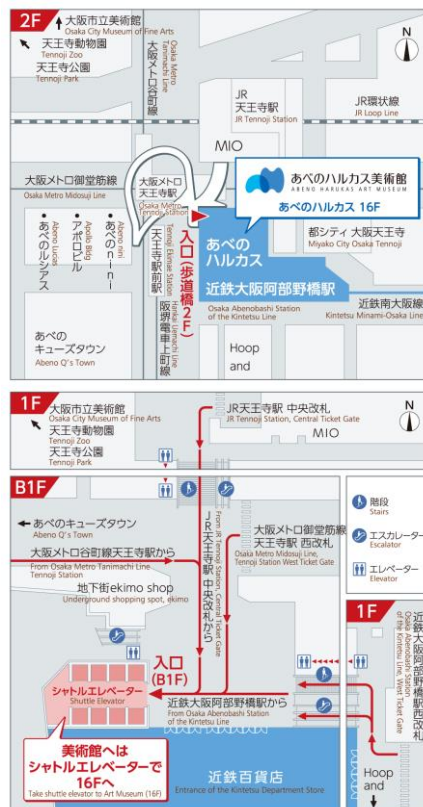
一部の月曜日、年末年始
展示替え期間(不定期)
*展覧会により休館日は異なります。

【所在地】

大阪市阿倍野区阿倍野筋1-1-43
あべのハルカス16階

【最寄駅】

近鉄南大阪線「大阪阿部野橋」駅
JR各線「天王寺」駅
Osaka Metro御堂筋線「天王寺」駅
Osaka Metro谷町線「天王寺」駅
阪堺上町線「天王寺駅前」駅



以上